



チャペルニュース Chapel News No.153

2026年4月1日

入学・進級号

LIFE LIGHT LOVE の大学



学長

大西 晴樹

東北学院大学への入学おめでとう
ございます。皆さんの入学を心より
歓迎します。

本学の建学の精神は「福音主義キ
リスト教による人格教育」でありま
す。これは、ちょうど一四〇年前に、
本学がアメリカから来日したプロテ
スタント・キリスト教の宣教師と、
日本人牧師によって設立された「仙
台神学校」という私塾に淵源し、そ
の後「North Japan College」（東北学
院）として発展してきたことに由来
します。「福音主義キリスト教」とは、
十六世紀の宗教改革によって世界に
広まったプロテスタント・キリスト
教という意味です。

さて、本学のスクールモットーは
LIFE LIGHT LOVEです。
人によつては、これを一括りにして
「3L精神」と呼ぶ人がいますが、L
IFE LIGHT LOVEについ
て、それぞれの言葉の意味をわか
りと把握して、自分の言葉としてい
えるようになることが大切です。も
ともこの言葉は、アメリカ人宣教
師たちの機関誌に毎号記されていた
「LIFE LIGHT LOVE for the World」
という言葉に由来します。「いのち、
ひかり、あいを世界のために」と訳さ

れますが、イエス・キリストが聖書
で示したいのち、ひかり、あいを世
界の人びとのため伝えようという意
味です。

東北学院大学は、このLIFE
LIGHT LOVEというスクール
モットーを教育理念として以下のよ
うに解釈しています。LIFE(い
のち)とは、有限な生命体のいのち
と神が自らの似姿として創造された
個人の尊厳を大切にすること。LI
GHT(ひかり)とは、学問や科学の
成果によつて新しい時代を切り開く
こと。LOVE(あい)とは、隣人愛
をもつて地域や世界に仕えること
です。

これらの言葉は、「言うは易く、行
うは難し」です。これから皆さんは、
必修科目である「聖書を学ぶ」で学修
し、1時限目と2時限目の間に、土
樋ではラーハウザー記念東北学院礼
拝堂、五橋では押川記念ホールで行
われる礼拝に出席してLIFE LI
GHT LOVEの意味を心に刻み
つけ、大学聖歌隊、東北学院大学ク
リスチャンフェローシップ(TGC
F)、ボランティア、学内ピアサポ
ート、体育会、文化団体連合会、サー
クルなどの活動に参加して、東北学
院大学の建学の精神、スクールモツ
トーを身につけ、体現する大人へと
成長してもらいたいと願っていま
す。

いのち 光 愛

大学宗教部長

原田 浩司



新入生の皆さん、入学おめでとうございます。心から歓迎いたします。これからいよいよ東北学院大学の一員として、二〇二六年度の学生生活を始めるにあたり、東北学院大学の基本的な歴史と教育方針について理解していただきます。

東北学院は今年、創立一四〇周年の節目を迎えます。今から一四〇年前、一八八六年にプロテスタント教会の牧師だった押川方義先生と米国人宣教師ウィリアム・ホーイ先生がキリスト教の専門家である牧師を養成する「仙台神学校」を仙台に開学しました。当初は少ない学生数でしたが、その後間もなく来日したデイビッド・シュネイダー宣教師が学校の運営に加わり、次第に全国からクリスチャンの青年たちが集うようになりました。教室では聖書が学ばれ、講堂では礼拝がささげられました。一八九一年に「東北学院」に校称を改めて今日に至ります。つまり、東北学院は創設以来、キリスト教の信仰に基づき教育を仙台で実践してきたのです。新入生の皆さんは、一四〇年続く東北学院の歴史の継承者であり、次の新しい歴史の一頁を開く担い手であるのです。

東北学院の教育方針は福音主義キリスト教の信仰に基づく人格形成を重んじます。特に各学生の人格形成

に不可欠な要素として「LIFE LIGHT LOVE」の三つの単語をスクール・モットーに集約し、日々の大学礼拝と、教室でのキリスト教科目の学びを通して、本学の学生はこのモットーが示す真意を学んでいただきます。

総合大学である東北学院で、皆さんはこれから幅広い教養を学び、高度な技術を習得していきます。四年間の大学教育を通して身に付ける専門的な知識や技術を何のために用いるのかが問われます。社会はますますデジタル化が進み、「マイナンバー」に代表されるように、一人ひとりの人間の数値化が広がっています。人間の能力は数値化された効率や成果といった「生産性」で測られつつあります。「AI（人工知能）」の到来により、時代はますます先端技術や数理的なデータ解析力が求められてきます。さらに第二次世界大戦の終結から八〇年を経た今、世界の平和秩序が大きく揺らいでいます。今この世界に、国や社会に、そして東北地方に生きるわたしたちに必要なのは何かを、この貴重な学生時代に真剣に向き合うことが重要です。そして、昔も今もこれからも、私たち人間にとって変わることもなく大切なことの多くを聖書から学ぶことができます。本学で学ぶ学生一人ひとりが聖書とおして、人間が人間らしく生きるのに必要な「いのち光愛」を豊かに学び、そして激動する世界の中にあつて仙台から地域へ、そして世界へと貢献することのできる真の知恵を体得し、愛をもって平和世界を造り上げる人として、人格的に成長して欲しいと願います。

Campus messages

各担当の先生たちからのご挨拶

Tsuchitoi



土樋キャンパスによるこそ！皆さんは、土樋キャンパスに重要文化財やそれに匹敵するような場所があるのをご存知でしょうか。まずキャンパスの端つこにはデフォレスト館(旧シップル館)として知られる元宣教師の住まいがあります。現在は、建物に崩壊の危険性があり、周りから眺めることしかできませんが、当時の洋風の建物(植民地スタイル)を偲ぶことができます。

続いて、土樋キャンパスには、国の指定文化財となっているラーハウザー記念礼拝堂があります。カレッジ・ゴシック様式のこの礼拝堂は、東日本大震災時にも守られ、インダグランドの工房によって作られた《キリストの昇天》のステンド・グラスが嵌められています。日本では唯一残るヒートン・パットラー&ベイン工房によるこのステンド・グラスは、同工房の現存作品として非常に重要なものです。この礼拝堂で行われている礼拝には、同様に貴重なドイツのベツケラート社製のパイプ・オルガンが礼拝堂には設置されています。当時の趣が残るこの礼拝堂は、皆さんにしばしの休息のひと時を与えてくれることでしょう。



土樋担当

大学宗教主任

渡辺 有美

Itsutsubashi



新入生のみなさま、入学おめでとうございます！東北学院大学では建学の精神に基づき、《キリスト教》に則った教育・研究活動が行われています。こう言うと「堅苦しいな、真面目かよ」とか、「宗教乙」と思われるかもしれませんが。しかしながら(当たり前ですが)、みなさんにはキリスト教信仰が強制されるということはありません。むしろ、キリスト教を純粋な(興味の対象)として楽しんでいただければと思います。

東北学院大学では、純粋な(興味の対象)としてキリスト教に触れる機会が用意されています。五橋キャンパスでも行われる《大学礼拝》では、荘厳なパイプオルガンの音に合わせた讃美歌や、聖書の言葉から語られる説教のなかで、生きたキリスト教の姿を味わうことができます。また、「聖書を学ぶ」や「キリスト教の歴史と思想」といった科目では、キリスト教精神の歴史的・思想的背景を学べるので、何かの縁と違って耳を傾けてみてください。ひよんなことから人生のどこかで折に触れて思い出すことになる言葉や考えに出会うことができるかもしれません。



五橋担当

大学宗教主任

岡田 勇督

『礼拝』 ～音楽と共に～

東北学院大学では、皆さんに礼拝への出席が奨励されています。礼拝は、入学式で皆さんに贈られた聖書と讃美歌のページをめくる、短いけれども心ときめく時間です。新約聖書の冒頭に置かれた4つの福音書には、イエスという人物が語られた多くのたとえ話が出てきます。試しに62ページ、マルコによる福音書の第1章21節から読んでみましょう。

ある会堂で教え始められたイエスに、汚れた霊に取り憑かれた男が叫びます。²⁴「ナザレのイエス、かまわないでくれ。我々を滅ぼしに来たのか。正体は分かっている。神の聖者だ。」²⁵イエスが、「黙れ。この人から出ていけ」とお叱りになると、²⁶汚れた霊はその人にけいれんを起こさせ、大声をあげて出ていった。

さて、この「汚れた霊」ということばを、私たちが日々の生活で抱く恐れや不安の感情と置き換えてみましょう。そして「黙れ」というイエスの呼びかけは、「あなたの心を乱す恐れや不安な気持ち、あるいは心に渦巻く思いを捨てて、心を静めなさい」という礼拝への招きのことばと考えてみてください。礼拝堂に着席したらスマホはカバンの中にしめて、心を静め、流れてくるオルガンの調べに耳を傾けましょう。

オルガンの前奏は、礼拝に集う皆さんの心を神に向けさせる役割を持っています。土樋ラーハウザー記念礼拝堂と、五橋キャンパス押川記念ホールそれぞれ特徴あるオルガンで、オルガニスト達がその日に相応しいと思われる曲を選び、奏でます。讃美歌集にはイエスの誕生を待ち望むアドヴェント、降誕を祝うクリスマス、イエスの生涯、受難と復活と昇天、聖霊の降臨など教会の暦に沿った、あるいは私たちの日々の生活に即した、たくさんのお讃美歌が載っていますね。それらにインスパイアされて、古今の作曲家により数多くのオルガン曲がつくられているのです。

讃美歌を開いて、さあ歌いましょう。オルガンがリードをします。古には聖職者が歌うのを聞くだけであった讃美は、

宗教改革を経て、礼拝をするために集まった人々が、自分の言葉で主体的に歌う行為となりました。皆さんの中には、その日初めて声を出す人も居るでしょう。オルガンに合わせ、礼拝に出席している人たちと声を合わせて歌っていると、だんだん調子が出てきます。お腹から声を出すとさらに身体に良いのです。歌ったあとはちょっと気持ちが上がったことに気づくでしょう。

次は朗読される聖書の箇所を目で追い、雑念はなるべく頭から追い出して、お話に耳を傾けます。祈りのあともう一つ、讃美歌（あるいは頌栄）を歌い短く黙祷しましょう。オルガンの後奏は皆さんへのエールです。時間のある人もない人も、後奏に押し出されて一日の勉学と活動に歩み出しましょう！

土樋の礼拝堂と五橋の押川ホールでは、オルガンの奏楽による大学礼拝の他にも、聖歌隊やTGC Fによる音楽礼拝、水曜公開礼拝が行われています。また定期的に宗教音楽の夕べ、オルガン演奏会などが開催されます。すぐれた音響をもつ場所での聴き、讃美する礼拝と音楽の体験は、きっと皆さんの心と体に作用して、これからの人生において、目に見えない糧となります。大学で過ごす皆さんが、毎日の習慣のように礼拝堂を訪れてくださるのをお待ちしております。



(大学オルガニスト 今井奈緒子)

ティー ジー シー エフ

TGCF でお会いしよう、 楽しもう！

東北学院クリスチャンフェローシップは、
一人一人の新しい出会いと発見を応援します。

TGCF (Tohoku Gakuin Christian Fellowship) は、
オール東北学院の交流活動です。
どなたでも、お気軽にご参加ください。

大学でのTGCFの活動は、木曜日午後を中心に行われています。「73Talk」(お昼休みの交流スペース)、「English Café」(国際交流・異文化交流イベント)「賛beat」(学生によるバンド演奏と賛美・メッセージ・交流会)を主な活動にしています。他にも学生企画の交流イベント、海外の先生、お客様がお越しくださる際には特別イベントも行います。

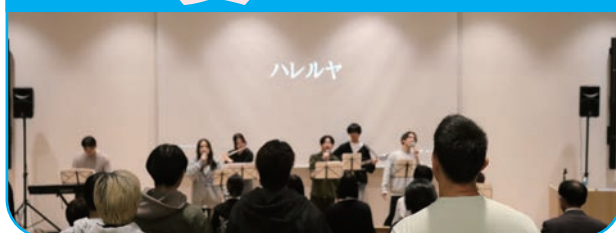
English Café



● English Café は留学のような雰囲気を体験できるイベントです。様々な国の宣教師が、ご自身のご経験と世界の文化を紹介していただきます。英語・外国語を使ってゲームや交流を行うので、楽しく言葉に親しむチャンスです。カフェですので、ゆっくり時間を過ごしてください。

● 学生バンドを中心に行う音楽礼拝です。大学礼拝とはちょっと違う、新しいポップな賛美歌(ワーシップソング)と一緒に歌ってみませんか。

賛 beat



● 73Talkは、お昼休みの時間に宗教センター別室で開かれている交流スペースです。どなたでも自由に参加できます。宣教師の先生もお越しくださっていて、国際交流の機会になっています。また2025年の特別イベントは、ドイツ、ハワイ、シンガポールなどの方々がお越しくださって、講演会や交流会を行いました。

73Talk / 特別イベント



宗教センターHP



TGCF
Instagram

TGCFは、皆さまの気安い場所、良い出会いと体験と交流の場所になることを目指して活動をしています。どなたでもご参加ください。充実した大学生活のきっかけになることができれば嬉しいです。

(東北学院宗教センター主事 阿部 頌栄)

私があなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。(ヨハネによる福音書 15:12)

大学礼拝について

基本的なことを知っておこう

東北学院大学では、講義のある日は大学礼拝を毎日行っています。これは創立した時から現在にいたるまで不変であり、「建学の精神」の具体的な現れです。新入生も在校生も大学礼拝の大切さを知って、午前中にキャンパスにいる時には積極的に出席しましょう。本学での学びに欠かせない「軸」であり、「養い」です。大学礼拝は教会の礼拝よりも短く設定され、学生の皆さんを対象に準備されています。

なお、音楽礼拝や英語礼拝など多少変則的なスタイルの礼拝も行っていますが、大学礼拝の基本的な進行内容をお伝えします。

3 【聖書】 *Bible*

司会者が聖書を開くように指示します。礼拝堂に早く来た人は、あらかじめ開いて読んでおくことをお勧めします。聖書は旧約聖書と新約聖書で構成されています。それぞれに頁数が付されていますのでよく確認してください。聖書には、人が生きていく上で必要なすべてのことが網羅されていると受け止められてきましたので、一語一句、大切な教えとして聞くように心がけましょう。

2 【讃美歌】 *Hymn*

司会者が讃美歌の番号を告げます。起立して、心をこめて、声高らかに、一緒に讃美歌を歌いましょう。歌詞を味わうことも大切です。そのうち、自分の好きな讃美歌もできるでしょう。

1 【前奏】 *Prelude*

一限が午前十時十五分に終わるとチャイムが鳴り、礼拝堂ではオルガンの前奏が始まります。礼拝堂の前列から順に着席して下さい。私語は慎み、電子機器はしまって、心を静めて礼拝に備えましょう。

6 【頌栄】 *Congregational Response*

神の栄光をたたえる短い讃美歌です。頌栄の後、黙祷を捧げます。

5 【祈祷】 *Prayer*

司会者は、聖書を説いた後、神の恵みと平安、導きを願う祈りを捧げます。祈りの最後に、司会者と出席者全員で「アーメン」と言います。「そのとおり」の意味です。祈りをみんなで共有する思いで、「アーメン」と唱和しましょう。讃美歌を歌った後の「アーメン」も同じ意味です。

4 【説教】 *Teaching*

司会者は、本学の宗教部の先生たちやクリスチャンの先生方であり、教会の牧師の方々が担当される日もあります。どの人も、その日に朗読した聖書に基づいて話されます。一般に「説教」というと、「叱られている」という意味もありますが、「礼拝の説教」は、「聖書を説いて教えることと理解してください。大切なことは、聖書の「福音」を聴くことであり、人類への「神の貴い愛」を知ることです。

7 【後奏】 *Postlude*

オルガンの後奏は、「世へ派遣を意味し、皆さんを礼拝堂から新しい一日へ送り出します。」



大学礼拝について（詳細）
<https://www.tohoku-gakuin.jp/ch/tgu/chapel/>



宗教部HP
<https://www.tohoku-gakuin.jp/ch/tgu/>



木村純二先生（大学宗教主任）
日本の思想や文学を専門にしています。大学礼拝で心を静めて自分と向き合う時間を大切にしてください。



椎名雄一郎先生（大学宗教主任）
キリスト教音楽、とりわけJ・S・バッハのオルガン作品研究をしています。礼拝ではみ言葉、そして神様の創造された音楽を共に聴いていきましょう。



岡田勇督先生（大学宗教主任）
専門は近現代の哲学・神学です。キリスト教は「硬い」ものでも「難しい」ものでもなく、「おもしろい」ものです。皆さんとお話できるのを楽しみにしています。



大門耕平先生（大学宗教主任）
学校教育について研究と実践を行っています。聖書の言葉を知り、考える時間を共有できることを楽しみにしています。



原田浩司先生（宗教部長）
専門はスコットランドの宗教改革と神学です。講義以外でも、大学礼拝をとおして聖書の言葉の豊かさやキリスト教の教えの魅力に、多くの学生の皆さんに触れたいと思います。

東北学院大学宗教部教員の紹介



今井奈緒子先生（大学オルガニスト）
教養教育センター教員として、キリスト教音楽や音楽史、オルガン演奏を教えています。音楽礼拝では、優れた讃美歌やオルガン曲を紹介します。



吉田新先生（総合人文学科長）
専門は新約聖書です。東北学院のキャンパスで多くの思い出を作ってください。



渡邊蘭子先生（大学宗教主任）
専門は古代・中世のキリスト教思想で、特にアウグスティヌスの思想を研究しています。共に聖書の言葉をじっくりと味わっていただければと思います。



渡辺有美先生（大学宗教主任）
初期イタリャ・ルネサンス美術が専門です。全ての良きものをくださる神様とともに見上げて行きましょう。



藤野雄大先生（大学宗教主任）
専門は、アメリカ教会史。東北学院で豊かな学びがなされますよう、お祈りしております。

第21回

「学生のためのオルガン公開講座」のお知らせ

この講座は、礼拝の楽器として用いられているオルガンに親しみ、演奏することを目的としています。専門家である本学の礼拝オルガニストが、各キャンパス礼拝会場のオルガンをを用いて指導します。

単位に関係のない講座ですので、卒業まで継続して受講することも可能です。受講場所も開講時間に合わせ、希望のキャンパスで受講することができます。

◆受講資格

・楽譜を読むことができ、鍵盤楽器の演奏の心得があること
・レッスン、練習に励む意欲があること

◆対象

本学に在籍する学生
(所属学部、学部生・大学院生を問わず)

◆内容

オルガンの奏法と作品を学ぶ
(個人またはグループレッスン形式)
ガイダンスと修了演奏会を実施します。

◆場所

五橋キャンパス押川記念ホール

◆受講料 年間一五、〇〇〇円

◆期間

五月〜十二月(レッスンは月二回ペースで実施。その他自主練習、演奏会準備)

◆募集人数

各キャンパスにつき若干名

◆講師

今井奈緒子(大学オルガニスト)
小野なおみ(礼拝オルガニスト)

◆受講申し込み

四月二七日(金)までGoogleフォームよりお申し込みください。

◆オーディション

以前、受講されていない方は必ず受験いただきます。出席が困難な場合は宗教音楽研究所までご連絡ください。

- 日時：4月23日(木) 17:00～
- 場所：16:50までに宗教音楽研究所(押川記念館3F)へお越しください。
- 曲目：特に課題曲はありませんので1曲演奏してください。

<お申込み Google フォーム>



URL <https://x.gd/sJRwh>

2026年度

礼拝オルガニストのみなさん

以下の方々が日々の礼拝奏楽をご担当されます。

先生	先生	先生	先生	先生	先生	先生	先生
子枝	枝理	和真	高泉	野原	小菅	大管	石今
奈緒子	牧和	井田	今高	石大	奈枝	子枝	枝理
緒理	和真	高泉	野原	小菅	大管	石今	奈緒子
子枝	枝理	和真	高泉	野原	小菅	大管	石今
緒理	和真	高泉	野原	小菅	大管	石今	奈緒子
子枝	枝理	和真	高泉	野原	小菅	大管	石今
緒理	和真	高泉	野原	小菅	大管	石今	奈緒子



礼拝の奏楽をもって、皆様を日々の学生生活へ送り出してくれます。ぜひ、オルガンの音色を聴きに、礼拝会場へお越しください。

宗教部

聖歌隊へのお誘い

宗教部聖歌隊は、建学の精神に基づき、大学礼拝やクリスマス行事などで賛美を捧げてくださいました。近年は、土樋キャンパスに加え、五橋キャンパスの行事やクリスマスでも歌声を響かせています。合唱経験のない方にとっては、新しいことに挑戦するチャンス。合唱経験のある方にとっては、これまでの経験をさらに深め、広げていく場となるでしょう。新年度も、礼拝での奉仕を中心に、さまざまな活動を予定しています。



世界から戦争の脅威がなくならず、私たちの身近にも悲しみや理不尽さを感じる出来事が多い時代だからこそ、ともに歌声を合わせる時間を大切にしたいと考えています。聖歌隊は、毎週木曜日15時から、土樋キャンパス礼拝堂で練習しています。学年・学部を問わず、どなたでも大歓迎です。どうぞお気軽にお越しください。

聖歌隊活動の最新情報はX(旧Twitter)に反映させますので、ぜひご覧ください。@choir_gakuin

編集後記

本院は二〇二六年に創立一四〇年という歴史の節目を迎えます。一八八六年の仙台神学校創設以来、三校祖が大切にしてきた祈りのバトンは、今も受け継がれています。土樋・五橋の両キャンパスで捧げられている大学礼拝は決して「なんとなくやっている」ものではなく、本学の建学の精神を象徴するものとして大切に守り伝えられてきたものです。時代の荒波や自分身の課題に直面し、迷う時、この大学礼拝の場こそが、神の愛や真理に触れ、進むべき道を示される場となります。本学一四〇年の重みを胸に、聖書の言葉に耳を傾け、共に祈りを捧げる。この「学院生ならではの」静かな沈黙の時間を、今年度も皆さんと分かち合いたいと願っています。

藤野雄大

二〇二六年四月一日
編集 東北学院大学宗教部
千九八〇一八五一
仙台市青葉区土樋二丁目三番一号